

「学生ので地域の魅力発信!

梅五輪おもてなしイベント」

成果報告書

2020年1月8日梅五輪プロジェクト実行委員会作成

1. 開催概要

期間：2019年11月1日（金）～11月30日（土）

常設展示：上記と同じ

イベント期間：2019年11月16日（土）、17日（土）、23日（土）、24日（日）、30日（土）

時間：13:00～16:00

場所：東京シティアターミナル本館2階「毎日が旅行博」

2. 来場者数実績の概要

・イベント開催4日間の来場者数合計：述べ551名

・売上合計：170,160円

開始時間	終了時間	人数	男性	女性	大人	子供	家族	夫婦	独り身	外国人
13:00	13:19	91	36	55	63	28	18	3	30	5
13:20	13:39	67	23	44	48	19	11	9	22	0
13:40	13:59	44	21	23	39	5	6	2	20	3
14:00	14:19	71	17	54	54	17	12	2	18	4
14:20	14:39	84	37	47	55	29	20	3	21	1
14:40	14:59	48	16	32	34	14	7	1	20	0
15:00	15:19	84	27	57	53	31	19	4	16	1
15:20	15:39	37	19	18	30	7	4	2	18	2
15:40	16:00	25	8	17	19	6	6	1	7	2
合計来場者数		551	204	347	395	156	103	27	172	18
			37.02%	62.98%	71.69%	28.31%				

図1—4 4日間の来場者数合計(時間帯・属性別)

3. 売上報告

(1) 福井県鯖江市との連携ブース

売上合計：63,200円

売上内訳：鯖江市運営の物販・体験 — 46,300円

Do Urushi Yourself 漆体験 — 16,900円

(2) 長野県飯田市との連携ブース

売上合計：90,660円

売上内訳：食品の物販 — 49,660円

水引の商品・体験 — 41,000 円

(3) 日本将棋連盟との連携ブース：確認中

売上合計：16,300 円

4. 新たな動線の構築

11月1日～11月31日にかけて、東京シティエアターミナル内の1階～3階に合計5箇所のwifiセンサーを設置し、学生が群流データの可視化と分析を行った。明らかになったことは、常設展示のみを開催した1週目では発生していなかった動線が、催しイベントを開催した2週目と3週目には発生していることである。具体的には、2階マクドナルドから毎日が旅行博会場への人の流れ（動線）が生まれた。このようなデータ結果から、「梅五輪おもてなしイベント」は毎日が旅行博会場の賑わいに貢献できたと言える。



図2 — 11月第1週、第2週、第3週の群流の比較

5. 実施内容報告

《1》体験イベント

(1) 株式会社伊藤園と連携した日本茶文化発信ブース

温度や種類によるお茶の味わいの変化を体験してもらい、お客様にお気

に入りを見つけて頂く。

① 4種類のお茶（煎茶、抹茶入り煎茶、ほうじ茶、玄米茶）のテイasting

② 属性調査アンケート



(2) 福井県鯖江市との漆・メガネ発信連携ブース

① Do Urushi Yourself 漆工房体験コーナー

② 鯖江市運営の製品の販売



(3) 長野県飯田市との水引発信連携ブース

- ① 水引職人との水引（梅結び、箸置き、小瓶ストラップ）体験
- ② 飯田市運営の水引・地場産品販売



(4) 浴衣ストリートブース
浴衣の着付けと貸し出し



(5) 日本将棋連盟と連携した将棋文化発信ブース

- ① 青野照市九段・田丸昇九段・関浩七段による指導対局と中継
- ② 公益社団法人日本将棋連盟・山形県天童市によるグッズ販売
- ③ 初心者向け英語版将棋パンフレット配布



《2》 成果物の常設展示



(1) 浮世絵マナーパンフレット

日本経済新聞社、太田記念美術館と連携し、実際の浮世絵で電車内のマナーを表現することで、日本文化に興味をもってもらいつつ、訪日外国人観光客へのマナーの浸透を図る。スマホアプリ「Nikkei AR」を浮世絵にかざすと、オリジナルの浮世絵と日英の説明を読むことができる。



(3) Otoshimono 2020 ～落とし物情報シェアチャットボット～

AI の画像認識と言語処理の機能を融合させ、落とし物と探している人をリアルタイムでマッチング可能なチャットボット。



(4) Bosai Master ～英語版 物資の代替案作成レシピ生成ボット～

ユーザーの属性や状況に合わせて、欲しい物資の代替するものを作るレシピを生成するチャットボット。



(5) Respoaid ～AR Navi Map～

千駄谷小学校と協働して小学生目線の「安心・安全マップ ～Respoaid～」という、地域のバリアフリー、休憩所、AED、自動販売機（日陰の有無付き）の情報を掲載したウェブサイトを開発、実装した。この地元の子供達だけが知る価値のある地図データに AR ナビゲーションを加え、初めてこの街を訪れる人でも迷わず目的地にたどり着けるアプリを開発中である。



(6) 太田記念美術館と連携した浮世絵発信グループによる浮世絵パネル

「毎日が旅行博」の会場の外壁や1階などといった人通りの多い場所に展示。思わず訪日外国人客が足を止めてしまうような浮世絵の展示により、会場外から会場内、一階から二階への誘導に成功した。

- ① イベントの催し内容を浮世絵で表現したパネルの作成・展示
- ② 東海道五十三次～二十選～の展示

